

(8) 中 国



中国地域では、景気は回復している。

- ・ 鉱工業生産は堅調に推移している。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

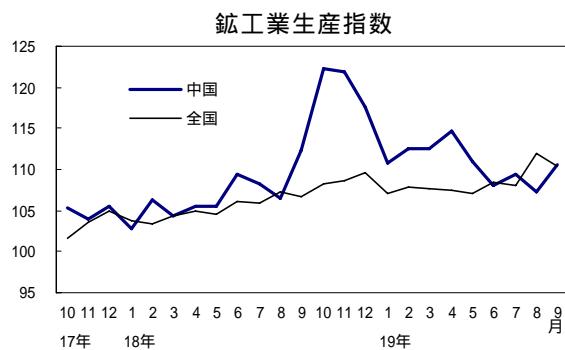
前回調査からの主要変更点

	前回(平成19年8月)	今回(平成19年11月)	
個人消費	緩やかに回復	おおむね横ばい	
住宅建設	減少	大幅に減少	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は堅調に推移している。

化学は、設備トラブルの影響などにより減少しているものの、需要は、引き続き自動車や家電関連向けを中心に好調だったことから、堅調に推移している。鉄鋼は、自動車、造船等を中心とした国内外の需要が引き続き好調なことから、堅調に推移している。輸送機械は、完成車の国内向け需要は引き続き伸び悩んでいるものの、国外は、欧州向けを中心に好調だったことから、堅調に推移している。一般機械は、半導体製造装置が国内外向けに好調だったことなどから、堅調に推移している。電子部品・デバイスは、減少しているものの、携帯電話向けのアクティブ型液晶素子や固定コンデンサが国内外向けに好調だったことから、堅調に推移している。



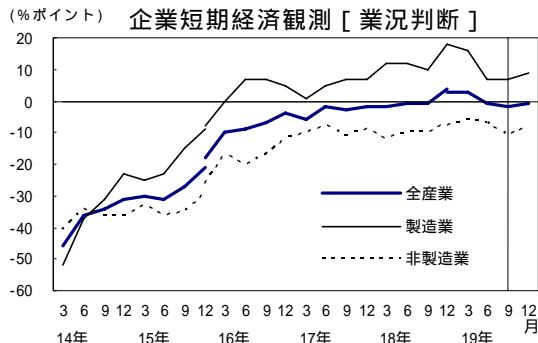
(備考) 1. 12年=100、季節調整値。
2. 平成19年9月の中国は速報値。

	付加価値 ウェイト	域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)		
		生産	出荷	在庫
		4~6 月期	7~9 月期	7~9 月期
化学	17.6	2.6	1.9	5.0
鉄鋼	12.1	4.5	2.7	0.7
輸送機械	12.0	2.4	4.1	1.8
一般機械	10.4	0.2	7.7	8.2
電子部品・デバイス	7.6	0.7	13.8	4.4
鉱工業	100.0	0.6	2.0	0.6

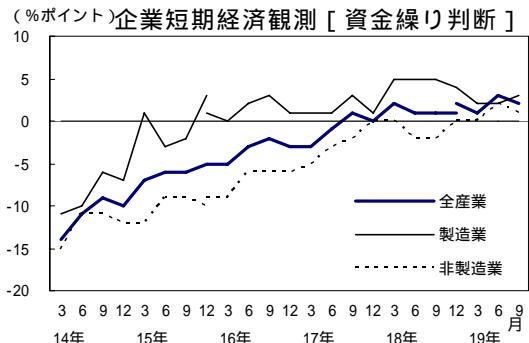
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。
2. 7~9月期は速報値。
3. 電子部品・デバイスの在庫指数は公表されていない。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

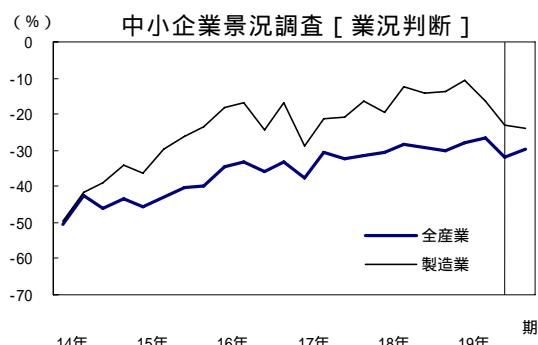
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」 - 「悪い」回答者数構成比。19年12月は予測。
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」 - 「苦しい」回答者数構成比。
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」 - 「悪化」回答者数構成比。19年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (10月) [企業動向関連 (現状)]

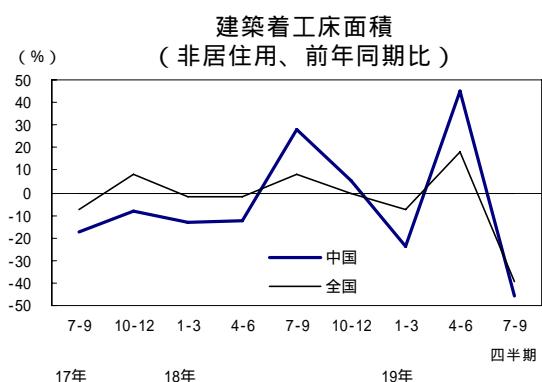
「原燃料価格の更なる高騰を価格に転嫁できており、何とか利益につながっている。工場の稼働率は高水準で推移している(化学工業)など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 19年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (9月調査)]

	(前年度比、%)	
	18年度実績	19年度計画
全産業	3.7	13.9(6.2)
製造業	2.5	11.7(11.4)
非製造業	14.6	17.1(0.6)

(備考)()は前回(6月)調査比修正率。



2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

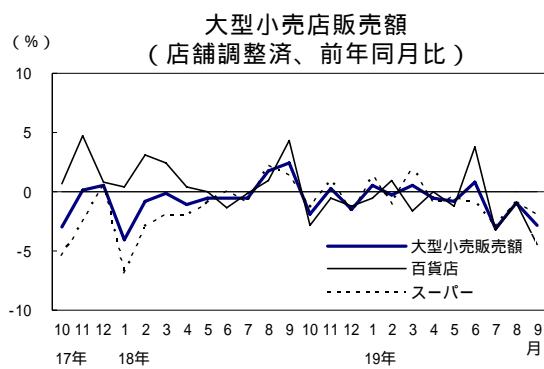
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、7月は、クリアランスセールを例年より1日前倒しして、6月30日から始めたことの反動や、台風で客足が伸びず、衣料品を中心に季節商材が振るわなかつたことから、前年を下回った。8月は、特に盆以降の暑さが厳しく、手袋、日傘などの夏物商材の動きはよかつたものの、秋物衣料が不調だったことなどから、前年を下回った。9月は、記録的な残暑が続き、衣料品を中心に秋物商材が振るわなかつたことや、前年の改装効果が一巡したことなどから、3か月連続で前年を下回った。なお、中国四国百貨店協会によると、中国地区の10月の売上高は前年同月比で2.8%減となっている。

スーパーは、飲食料品に動きがみられたものの、衣料品が振るわなかつたことから、前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(10月)[家計動向関連(現状)]

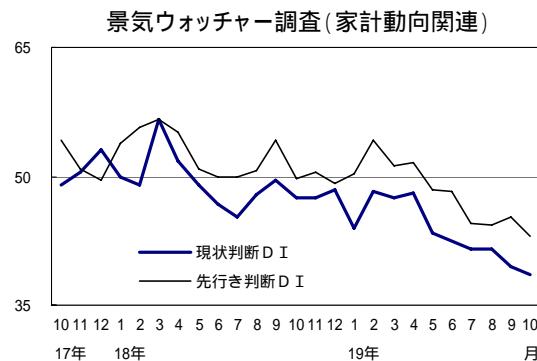
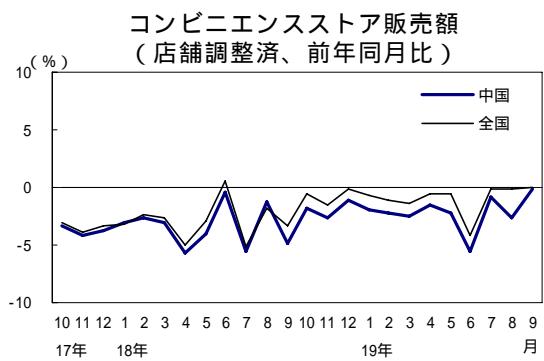
「猛暑が長引いたことに加え、ここ最近は一気に冷え込むようになり、「秋の行楽シーズン」のないままに冬に突入した感がある(テーマパーク)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。



	18年10-12月	19年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店	1.1	0.3	0.2	2.3
百貨店	1.5	0.4	0.9	3.0
スーパー	0.8	0.8	0.8	1.9
コンビニ	1.8	2.2	3.1	1.3
景気ウォッチャー	47.8	46.6	44.6	40.8

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

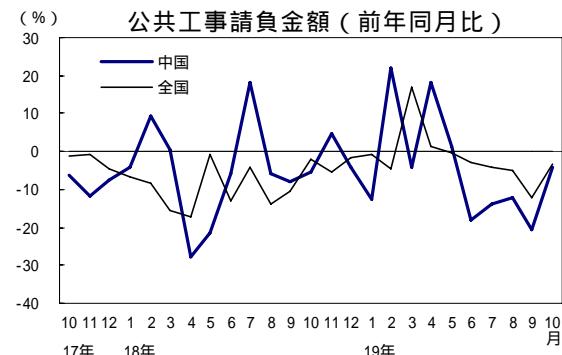
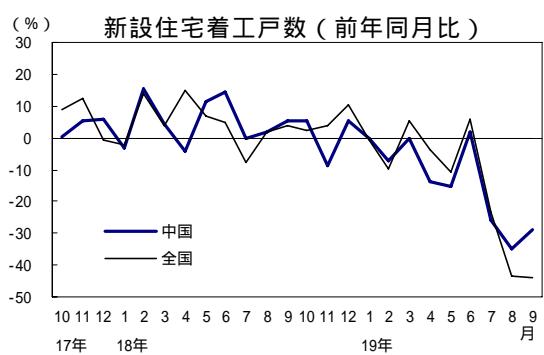
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



(2) 住宅建設は大幅に減少している。

貸家が前年を大幅に下回ったことから、全体でも大幅に減少している。

(3) 公共投資は19年度累計でみると前年度を下回っている。

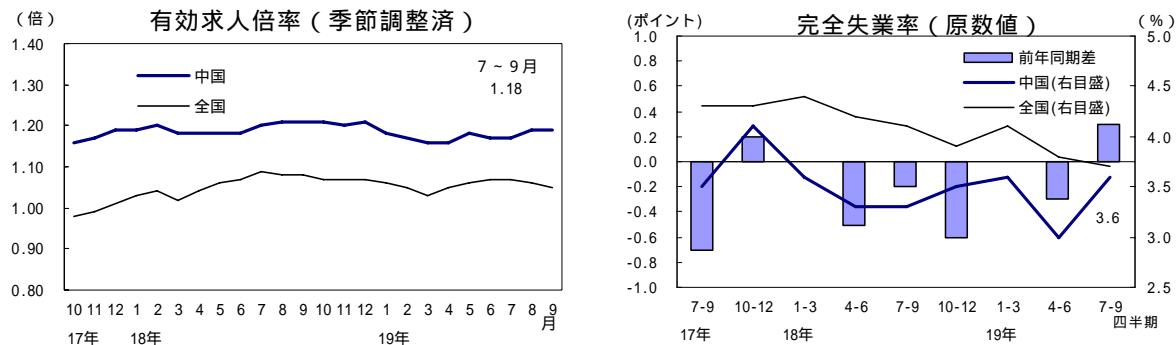


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査(10月)[雇用関連(現状)]

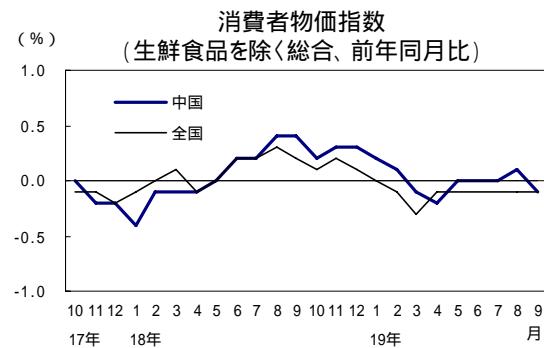
「採用意欲はあるものの人件費=コストととらえる向きが依然強く、業績回復が必ずしも雇用拡大とはなっていない(民間職業紹介機関)」など「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	18年10-12月	19年1-3月	4-6月	7-9月	19年10月
倒産件数 (前年比)	156 2.0	158 14.1	144 0.7	144 17.7	56 9.7
負債総額 (前年比)	394 37.1	611 20.8	454 8.8	897 25.8	243 44.9



景気ウォッチャー調査(10月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

- 判断に苦しむ月である。売上は高額品を中心に好調だが、一般品やメンテナンス商品は前期を下回っている。来客数も前期を若干下回るが、悪くはない(自動車備品販売店)。

<先行き>

- 季節が移り変わり、消費意欲も我慢の限界に来ている。タイムリーな企画を打ち出すなどし、買物への動機付けを積極的に行う(百貨店)。

景気ウォッチャー調査(合計)

